



令和5年6月15日  
第490号  
新発田市立東豊小学校

ホームページ <http://toho.shibata.ed.jp>

## 「不思議なこと」～宇宙とモンシロチョウ～

校長 飯塚 進

天気の良い朝のことです。ある子どもが、「朝なのに月が出ているよ。」と教えてくれました。たぶん、その子どもにとっては、月は夜に見えるもので、朝に見えるなんて不思議に感じたのでしょう。本人にしてみれば大発見です。私も月を見ながら、さわやかな気持ちになりました。

不思議と言えば、私も子どもの頃から不思議に思っていることがあります。それは「宇宙に端があったとして、その外側には何があるのだろうか。」ということです。そのことを考え始めると眠れなくなりそうです。宇宙の広さはおよそ137億光年あって、今も広がり続けているというのです。想像もできない大きさの宇宙があって、さらにその外側に、永遠に続くと思われる広がりがあることを想像すると、不思議な気持ちになってしまうのです。

目の前にも不思議はあります。3年生の理科で、「モンシロチョウ」の学習があります。モンシロチョウは卵を産み、卵から幼虫が生まれ、アオムシとして、キャベツなどを食べながら大きくなります。ある時期がくると、アオムシはさなぎになり、やがてさなぎからモンシロチョウが出てくるのです。何がどう変化して羽ができ、空に羽ばたいていくのか、この一連の変化も不思議です。

子どもたちには、自分が感じた不思議なことを、友達や先生とぜひ話をしてほしいと思います。楽しい時間になるのではないかと思います。

学校で勉強する内容は、先人が見つけた真実や法則、創り出した文化などだと考えています。「分かっていること」を学ぶことがほとんどです。しかし、この世の中そのものが「分かっていないこと」に溢れていると思うのです。先生から出された課題に真剣に取り組むことはもちろん大切ですが、子どもたち自身が不思議さを感じ、自分の中から「問い」が生まれたときの目の輝きは違います。

基礎基本を学ぶこと、人の話をしっかり聞くことを土台にして、まだ分かっていないこと、不思議なことなど「問い」を解明するような授業、学校でありたいと思います。